

# 地球異変と私たちの未来

日程：2022年1月8日(土)～9日(日)

会場&オンラインのハイブリッド開催

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は2021年の第6次報告書で「人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と言及し、その影響が複合的な極端現象の発生確率を高めていると指摘している。日本のみならず中国、ドイツを中心としたヨーロッパにおける大洪水などこれまで人類が直面したことのないレベルで危機的な気象災害が発生している。このような点から今年度の復興・減災フォーラムは「地球異変と私たちの未来」をテーマとする。個別テーマとしては初日の全国被災地交流集会「円卓会議」では「地球異変に立ち向かう～若者の挑戦・復興への課題」をテーマとし、シンポジウムでは「地球異変に立ち向かう～社会再生と人間復興に向けて」をテーマとする。昨今の豪雨災害においてこれまでの国土防災の常識は通用せず、新型コロナウイルスという全世界を脅かす感染症の流行で、応急対応一復旧・復興一防災という災害サイクルの各フェーズで、これまでになかった発想と工夫が求められている。とりわけ「既定復興」と揶揄されているように固定化された災害復興のメニューでは復興は覚束ず、仮設住宅の生活が長期に及ぶなど人々の生活再建も滞ったままだ。東日本大震災を経験し、首都直下地震と南海トラフ巨大地震の襲来におびえる今日、われわれには、どのような戦略が必要なのかを考える。

1月8日(土) 13:00～17:30

場所：関西学院会館レセプションホール

## 全国被災地交流集会「円卓会議」

### 「地球異変に立ち向かう ～若者の挑戦・復興への課題」

新型コロナウイルス感染症が収束をみない中、豪雨災害は今年も日本各地で発生した。気候変動の影響によって今後も豪雨災害は頻繁となる可能性が非常に高くなると予測されている。この毎年のように発生する豪雨災害に対して今こそ過去の被災地から現在の被災地へ経験の共有が求められる。第一部はボランティアとしてつながる若者らの声を聴く場とする。そして第二部では過去の被災地の今と現在の被災地の今をつなぐ。

- 第一部 若者円卓会議
- 第二部 豪雨災害からの支えあいと復興
- 第三部 全体討論会

司会：斉藤 容子(関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・准教授)

1月9日(日) 13:00～17:00

場所：関西学院会館レセプションホール

## シンポジウム

### 「地球異変に立ち向かう ～社会再生と人間復興に向けて」

(敬称略)

- 特別講演 「Z世代が思う地球の今」  
露木 志奈(環境活動家)
- 基調講演 「災難に逢う時節には、災難に逢うがよく候」  
原田 憲一(前至誠館大学学長、前比較文明学会会長)
- パネル討論  
「水害から一人一人の復興を可能にする制度づくりへ向けて」  
《パネリスト》  
高林 秀明(熊本学園大学社会福祉学部教授)  
小松 政(佐賀県武雄市長)  
津久井 進(弁護士、関西学院大学災害復興制度研究所学外研究員)  
斉藤 容子(関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・准教授)  
《コーディネーター》  
金子 由芳(神戸大学社会システムイノベーションセンター教授)

#### 申し込み方法 (参加無料)

参加ご希望の方は、会場参加またはオンライン参加のいずれかを選択の上、裏面のQRコードまたは参加申し込み用紙にてお申込みください。  
※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場への入場制限を実施したうえでの開催となります。また、新型コロナウイルス感染拡大の状況等により、急遽開催方法が変更になる場合がございます。